

介護老人保健施設オアシス21

症例概要 入所者：男性 80代 要介護度 1

病名：慢性硬膜下血腫術後（2023年3月下旬）、高血圧症、狭心症、不眠症、認知症

入所までの経過：養子の息子と二人暮らし。息子とは折り合いが悪く、息子自身も下肢の障害があり、ご本人の介助は難しい状況であった。2023年に入ってから認知面の低下あり在宅サービス利用開始。薬や金銭の管理、身の回りのことが出来なくなってきたと自覚症状があり病院受診した結果、左慢性硬膜下血腫あり即日入院し手術となった。術後、在宅復帰困難となり生活施設選定目的で2023年6月下旬当施設へ入所される。

内 容

当施設入所時、歩行安定されており認知症による見当識障害や短期記憶障害はあるもののADLは自立レベル。リハビリや活動には消極的であり、生活リハビリの声掛けしても「できません。」と断り居室に引きこもっている事が多かった。

口数や笑顔が少なく、帰宅欲求や怒りっぽい様子も見られていた。ご本人との関わりのなかで、カラオケやスポーツ観戦が趣味で、働いている時は野球観戦によく足を運んでいたと知る事が出来た。ご本人の好きな事を取り入れる事で活動への意欲を高め、活気のある療養生活を過ごせるよう、「石狩レッドフェニックスの野球観戦」を企画。野球観戦にむけて安全に車の乗り降りや球場の階段移動ができるよう、階段昇降のリハビリも取り入れ準備していった。

野球観戦当日は他ご利用者・スタッフとともに球場へ向かい、大きな声で応援されていた。車の乗り降りや球場の移動も安全に行われ、笑顔で過ごされていた。

野球観戦後は一緒に行ったご利用者と挨拶したり、同室者と野球の話題で会話されている姿が見られた。「野球観戦に行ってきた。楽しかった。また機会があれば行きたい。」と笑顔で話されていた。

ご本人から笑顔であいさつや声をかけてくれることが増え、日課や活動に参加されるようになった。音楽に合わせての体操も大きな声で歌いながら行われ、明るく生き生きとした様子で療養生活をすごされている。